

平成30年度 第26回 タイ王国ボランティア交流研修

(1) 参加者

◎リーダー、○サブリーダー、◇団 長

生徒：3年 9名 2年 3名 1年 4名 計16名

引 率：4名

◎鈴木 秋仁(機械科) ○鈴木 陽也(電子科) ◇須釜 喜一(校長)



(2) 活動期間と訪問地

① 期 間：平成30年12月9日(日)～17日(月)

② 訪問地：タイ王国 文化歴史：スパンブリー・アユタヤ

バンコク

修理活動：ソムテッド・サンプラカラ病院

企業訪問：タイコン社・吉野工業所(タイ工場：吉野ムーンパッタナ)

(3) これまでのタイ王国ボランティア交流研修

1991年 2月 創立30周年記念事業として『国際交流タイボランティア活動』がスタート

1993年 1月 車いす修理活動と車いす贈呈を開始

2015年 1月 新たなプログラムとして日系企業訪問を加える

(4) 空飛ぶ車いす

1992年 アジアの問題を考える会より提案を受け、「車いすをアジアの国々へ贈る運動」に着手。使われなくなった車いすを本校で修理し、必要とする海外へと船便で送る。

1999年 必要とする障害者施設や障害を持つ方々に、より早く役立たせてもらいたいと考え、空輸により送り届ける「空飛ぶ車いす」活動がスタート。

☆日本社会福祉弘済会支援のもと「空飛ぶ車いす」活動の取り組みは全国へと広まり、現在では全国28都道府県92校の学校と社会人グループ4団体にて取り組んでいる。

本校ではこれまで、世界22ヶ国に2083台の車いすをプレゼント。

(5) タイ王国について



赤…国家
白…仏教
青…王室
を表す



首都：バンコク

人口：約 6500 万人

主要語：タイ語

時差：-2 時間

通貨：バーツ Baht

国土のほぼ全域が熱帯モンスーン気候で、年間を通じて気温が高い。1年は暑季・雨季・乾季の3つのシーズンに分けられ、研修期間である12月は乾季であるため、ほとんど雨が降らず気候が安定している。

(6) 歴史文化研修

ダムヌン・サドゥアック水上マーケットでは、食べ物をはじめ衣類や陶器などを小舟で販売しており、値段の交渉などタイの文化を体験した。その他にも高さ約120メートルの世界最大級の釣鐘状の仏塔がある「プラパトム・チェディ」、全長46メートルの黄金の涅槃仏がある「ワット・ポー」、ヒンドゥー教の影響が強く他のタイの仏教寺院とは違った「ワット・アルン」などを見学し、タイの強い仏教への信仰を感じることができた。世界遺産のアユタヤ遺跡見学やスパンブリーの「ワット・パーレイ」では高僧から洗礼を受けるなど、様々なタイの文化・歴史を知ることができた。



(7) 車いす修理活動

バンコクの北へ約100km、ほとんどの地域が川によって形成された平地で、稲作やエビの養殖などが盛んに行われているスパンブリーのソムテッド・サンプラカ病院で行った。

車いす修理活動は3~4人でグループをつくり計5つのグループで取り組んだ。病院には6台の車いすしか集まっていなかったが、修理活動中に近隣の病院や施設から多くの車いすが集まってきた。また、病院のソーシャルワーカーが車いすの修理活動が行われていることをSNSに掲載すると、それを見た現地メディアや自分の車いすも修理してもらいたいと飛び入りでもってくるユーザーもあり、出来るだけ多くの車いすを修理したいと修理活動に取り組んだ。しかし、1日目は初参加メンバーが車いすの構造の違いに戸惑って指示待ちになってしまい、3台の車いすしか修理することができなかった。夜のミーティングで「修理中にもっと会話をする」「失敗を恐れずチャレンジする」ことを決め翌日からの修理活動に臨んだ。会話が増えたことでメンバー同士の連携が高まり、指示されるのではなく自ら仕事を探せるようになった。溶接など難しい作業にも積極的にチャレンジした結果、2日目は9台、3日目は13台と3日間で計25台の車いすを修理することができた。車いすを受け取りにきた方が「私が持ってきた車いすじゃない」と驚き笑顔になったのを見て、やりがいと達成感を感じることができた。



(8) 車いす贈呈式

持参した16台の車いすを贈呈した。贈呈式には、地方の病院や福祉施設の関係者の方が来ており、大きな病院や都市に比べ車いすが少なく、施設内の車いすが不足しているそうで、とても喜んでもらうことができた。また、子供用の車いすがほしいと事前に連絡を受けていた家族も来ていて、その場で子供の体型に合わせて車いすの調整を行ない、使用方法を説明して直接贈呈することができた。



(9) 交流会

当初はビンゴ大会を行う予定でしたが、病院にいる子供たちを見て歌に変更した。タイの子供たちが知っている日本の歌をソーシャルワーカーの方に教えてもらい、車いす修理の合間や移動中に練習をしてドラえもんや一休さんの歌を披露した。

その後、国際ソロプチミスト栃木様よりお預かりした文房具と、ビンゴ大会の景品で持ってきた玩具をプレゼントした。スタッフや保護者の方も一緒に盛り上がる事ができた。



(10) 日系企業訪問

このプログラムは、グローバルな人材育成を目的としたもので、今回は、タイコン社と吉野工業所(タイ工場：吉野ムーン・パッタナ工場)を見学した。吉野工業所は主に、化粧品ケースや洗剤のノズルなどプラスチック関係の製品を製造している会社です。女性の従業員の割合が多く、その理由としてタイの女性は器用で責任感が強い方が多いので女性を多く採用しているそうです。

また、外国でコミュニケーションをとるには「自ら挑戦しなくてはならない」「コミュニケーションをとる時は文法より、喋ることが大切」など外国で仕事をするうえで大切なことを教えていただいた。



(11) シャロンナコン(第3350地区バンコク)ロータリークラブとの交流

タイで行われた、第2550地区(栃木県)のロータリークラブとタイのシャロンナコンロータリークラブとの交流会に招待いただき、近年のタイ王国ボランティア交流研修の様子と「空飛ぶ車いす」活動の発表や本校の紹介をさせていただきました。



(12) 活動のまとめ

今年度のタイ王国ボランティア交流研修では“思い出に残る研修にしよう”をテーマに掲げタイでの活動をスタートしました。車いす修理活動ではSNSやメディアを通じて活動が発信され、私たちの活動を知った個人の方が修理依頼にくるなど、今までに類を見ない広がりを見せました。個人で持ってきた車いすもできるだけ修理したいと全員が一致団結し、「車いすの構造が違う」「持参したタイヤのサイズが合わない」など様々な問題がありましたが、メンバー同士で積極的にアイデアを出し合い、部品がなくなるまで修理活動を行い3日間で25台の車いすを修理することができました。内容を変更した交流会もメンバーで協力しながら練習を行い、素晴らしい盛り上がりを見せることができました。事前研修が始まった6月ころ、参加人数が16人と多いので研修団としてのまとまることのできるのか心配していましたが、心配とは裏腹に人数が多いことの利点を最大限に活かすことができました。16人だからこそできたことだと思います。

病院の子供たちや車いすを受け取った人たちの笑顔、心から歓迎してくれた病院のスタッフ方の気持ち、一緒に問題を乗り越えた仲間との絆など、素晴らしい経験をする事ができ“思い出に残る研修にしよう”のテーマは十二分に達成され、“最高の思い出”として私たちのこれからの人生を豊かにしてくれるものだと感じます。

今回、私たちがタイで経験した貴重な体験を、これからの人生に活かすとともに、この素晴らしい活動について、本校生徒をはじめ多くの人たちに広めていきたいです。



(13) 最後にご支援・ご協力いただきました多くの方々に感謝いたします

- ・タイ NGO (サイワルーン 様, パンニー 様)
- ・タイコン インダストリアル コネクション(株)
- ・吉野工業所(タイ工場: 吉野ムーン・パッタナ工場)
- ・栃木西ロータリークラブ ・国際ソロプチミスト栃木
- ・栃木市社会福祉協議会
- ・(公財) 日本社会福祉弘済会
- ・栃木県教育委員会
- ・栃木工業高校同窓会
- ・栃木工業高校 PTA

【タイ語指導】久保 哲夫 様

【車いす修理活動および交流会】

栃木特別支援学校

介護老人保健施設 とちぎの郷

【工具保管協力】佐藤 正喜 様